

初代校長 愛用の机

写真にある机は、上坂部小学校の印刷室で活用しているものです。この机は遡ること80年前、初代校長(金井校長)愛用の机で以来ずっと使われ続けています。上坂部小学校の学校史上、最古の現物(現役物)といってもいいでしょう。

元々、この机の由来など語り継がれるものでもなく、誰も知る由もなかったのですが、近年に校内整理する中で、たまたま日の目を見たわけです。由来の決め手は、引き出しにあります。引き出しの奥のほうに、地歴散歩前号に紹介した所の「初代校長宛の葉書」がひっそりと眠っていたのが発見されたのです。校長宛の個人的な内容の葉書が、わざわざ他人の机にしまわれることはないでしょうし、風格があって広々・がっしりとした造りは、校長机ならではのものです。捨てるに捨てられない重厚さ…この机が、はるか昔から現在まで生き延びた事由は、ここにあります。

初代校長机が、その後誰にどのように引き継がれ、どんな使い方をされてきたのかは、不明です。が、数代の校長に受け継がれ、その後校長机としての役目は終わり、転用されたのでは…と推察します。通常、転勤や退職などで任を退く際は、身辺整理して跡を残しません。また、整理漏れがあったとしても、引き継ぐ人が持ち主に知らせるか、もしくは処分するのが通常です。私的な葉書1枚ならなおさらのことです。人知れず奥にひっそりと眠っていた…この葉書が、はるか昔から現在まで生き延びた事由は、ここにあります。

遺跡が発見された際、その出土物から年代や人々(生活者、所有者、埋葬者など)を特定することがよくありますが、それは考古学の世界だけでなく、校内の身近な歴史にも相通じるものがあります。平成28年はちょうど創立80周年、この期に初代校長宛の葉書が発見され、机が特定されたのも何かの縁かも知れません。歴史文化は、「つながり」によって受け継がれたり、一旦途絶えたり、また日の目を見たりします。

「尼崎・上坂部地歴散歩」「上坂部懐かし写真館」も、学校教育目標「ほほえみ・つながり・かがやき」に基づいて地域の歴史文化を掘り起こし、先人とつながり、地域の方々ともつながっていく所存です。連載から2年で第100話も見えてきましたが、今後も様々な紹介していきたいと思えます。

